



新刊入りました！～読書ノススメ～



先日、本校の図書館に新刊が入りました。今年の本屋大賞を受賞した「成瀬は天下を取りに行く」を始め、多くの魅力的な本が新刊コーナーに並んでいます。

新刊本以外にも、本校の図書館には約7000冊の蔵書があり、昼休みには多くの生徒が来館しています。しかしその一方で貸し出し数はあまり多くありません。学習や部活動で忙しいというのかも知れませんが、生徒にはぜひ図書館を積極的に利用し、読書に取り組んで欲しいと思っています。

読書によって、さまざまな力が身につくと言われていています。語彙力や読解力、さらにはスポーツなど、他の場面でも役立つ集中力も養われるので、国語のみならず学力向上につながるでしょう。

その他にも、読書からは下記のような効果があるとされています。

○想像力が豊かになる

本を読むときは、文章から風景や登場人物の気持ちを想像しなければなりません。絵本やマンガも同じ。絵と絵の間の映像や登場人物の声、音などはイメージする必要があります。読書は頭の中でさまざまなことを思い描くため、自然と想像力が豊かになるのです。

○人の気持ちがわかりコミュニケーション力が高まる

想像力が豊かになると、日常生活でも相手の気持ちを想像したり理解したりできるようになります。場の空気を読んだり、次に起きることを想定したりする力も育つでしょう。行動や言葉のバリエーションも増えるため、コミュニケーションスキルもアップします。

～ベネッセ教育情報 <https://benesse.jp/> より～

上記のような「生きる力」を高めていくためにも、学校でも朝読書など読書活動を進めていますが、保護者の皆様におかれましても、その効果をご理解いただき、お子さんに読んだ本の感想を聞くなど、ご支援をお願いいたします。

スマホのルールありますか？

一関市では児童生徒によるスマートフォンなどやゲーム機などの情報端末の使用の実態を把握し、課題を明らかにするため、毎年利用目的や利用時間などについてのアンケート調査を行っています。そしてこの調査の結果から、約4割の生徒が、家庭で特に何の規制もなく、スマホなどの情報端末を利用していることが明らかとなりました。

スマホの利用における弊害や危険については、これまでもお知らせしてきたかと思いますが、今回は、各ご家庭でお子さんのスマホの利用実態を知り、家庭でのルールづくりに繋げていく方法についてご紹介したいと思います。（本来スマホを持たせたときに、家庭でのルールをつくるべきなのですが、それを行っていなかった、あるいはその時決めたはずのルールが有名無実化している場合には、ぜひ行ってみてください。



1. まず、実態把握！

スマホには現在の利用状況をアプリの種類ごとにどれくらい使っているかをわかりやすく表示できる機能があります。これを利用してお子さんのスマホの利用状況を確認しましょう。

例えば、アンドロイドの場合

- ① ホーム画面から「設定」をタップ。
- ② 「Digital Wellbeing と保護者による使用制限」をタップ。

すると左のような画面が出て、それぞれのアプリの利用時間が表示されます。さらにその下の「ダッシュボード」をタップすると過去の利用時間を調べたり、アプリの使用に制限をかけたりできます。

2. ルールづくりの話し合い

中学生になると、行動や発言が一丁前になってきます。友達付き合いや行動範囲が目に見えて変わり、自分で考えて行動したくなり、親の小言にはなかなか従わなくなってきます。

そこでルール設定のポイントは「自主性」と成長に応じた「ルールの見直し」です。

ルールをつくる場合には、最低でも以下の項目を明らかにする必要があります。

- ①時間（1日〇時間、夜〇時まで、など）
※ 一関市では遅くとも夜9時までに居間に返す「居間9ルール」があります。
- ②使ってよい場所・保管場所
- ③アプリのインストールに係るルール
- ④SNSの使用に係るルール
- ⑤ルールを破ったときのペナルティ



①と②は依存を防ぐためのルール、③はゲームなど依存性の高いアプリへの注意やウィルスなどの危険を防ぐためのルール、④は人間関係を良好に保ち、いじめなどに加担しないためのルールです。

また、⑤も必要です。一方的に親が押し付けたルールではなく、親子で話し合っつくれたルールであれば、破った場合には有無を言わずペナルティを実行しましょう。

スマホのルールづくりは、単にスマホの害から子どもたちを遠ざけるだけでなく、この作業を通じて社会のルールやマナーを学ぶ絶好の機会となります。それぞれのご家庭でぜひ取り組んで頂きますとともに、良い実践があれば、校長までお寄せ頂ければと思います。